

不都合な真実

- (1) 昨年の夏、あるコンビニエンスストアの店員が妙なことに気づいた。
- (2) 若い男がクレジットカードでビールと雑誌を購入しようとしていた。
- (3) しかし、カードの名義は女性の名前だった。
- (4) 店員がこのことを尋ねると、若い男はびくびくした様子を見せ、店から走って出て行った。
- (5) 店員は警察に通報した。
- (6) 警察が到着した時には、若い男はいなくなっていた。
- (7) しかし2時間後、男はまたカードを使おうとした。
- (8) 今度は電気店で高価な液晶テレビを買おうとした。
- (9) 店員がカードのことを尋ねると、男は逃げようとした。
- (10) しかし、2人の若い客が男を取り押さえた。
- (11) 男は逃げることができなかった。
- (12) 警察が到着し、若い男を逮捕した。
- (13) 警察は男を告発しなかったが、それは初犯だったからだ。
- (14) カードの所有者は警察にカードを返してもらおうと心からほっとしたようだった。
- (15) 彼女の話では、カードがなくなっていることに気づいていなかったという。